

星城大学

学長 石田 隆城 様

星城大学 外部評価委員会

委 員 西村 周三（京 都 大 学 名 誉 教 授）

委 員 金子 章道（畿 央 大 学 栄 誉 教 授）

委 員 大橋 靖雄（愛知学院大学名誉教授）

委 員 出口 克美（星 城 大 学 後 援 会 長）

昨年度に続き、今年度も外部評価委員会を対面にて実施することが出来ました。大学の自己点検評価として纏められた「自己点検評価書」を各委員において点検を行い、委員会での面談、回答をもとに各委員において再度点検・評価を行い、下記のとおりまとめとしました。

星城大学外部評価委員会 意見

いよいよ日本は少子高齢化時代に入り、どの大学も入学者の確保が最大の課題となっている。星城大学も 2021 年度から第 5 次中期計画を立案し、全教職員を挙げてこの問題に取り組んでいることが理解できた。しかし、入学者が確保できるかどうかは今後の取り組みに掛っていると思われる。

2022 年度には財団法人日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受け、『機構が定める大学評価基準を満たしている』と認定されており、大学評価基準については満足する状態であると認識できた。そこで今回は第 5 次中期計画に関する報告資料を中心に意見を述べる。

1. 中期計画資料の冒頭「第 5 次中計部門基本方針」の中に「③総学生数確保による経営、財務の安定化（定員確保と退学率減少、偏差値アップと少子化対策）」、「④特色を打ち出し、差別化を見据えたカリキュラムの改変による教育基盤の確立」、そして、「上記主要項目達成を通じて人々に喜ばれ、教職員が生き生きと働く職場環境の構築」という記述があるが、資料には具体化策があまり示されていないように思われる。例えば「A 教育・業務の視点（2）教学マネジメントの整備」の項目に、『⑧実践的教育への変革 a) アクティブラーニング導入の推進と活性化・b) 「知識のみならず知識の使い方を学ぶ」教育の推進・ c) 学生が「何ができるようになったのか」を自覚する教育の推進』などであるが、このようなことは是非、具体的に推し進めて欲しい。
2. 「B 人材の視点」の中項目の主旨「建学の精神に基づいた、教職員像の確立（ディプロマポリシーの確立）・教職員像の周知と共有化」と掲げられている。学生を指導教育する教員の姿勢が重要であることは言を俟たないが、星城大学の教員はどのような姿勢が理想なのかをしっかりと議論し、示して頂きたい。

星城大学が設立されて 22 年が経過し、卒業生もすでに多数の方が社会の中堅として活動していると思われる。星城大学でこれまで教育してきた人たちが社会でどのように活躍し、またその方々の人生に大学教育がどのような役割を果たしてきたか、振り返って考えてみる時期に来ているのではないかと。「卒業生たちは大学が目指すような人物になっているか?」、「彼らは大学で受けた教育をどのように評価しているか?」、一度こうした視点から卒業生たちの状況や意識調査を行うことは意義があると思われる。今後の大学教育を進めていくうえで大きな手掛かりを得られるのではないかと。在学生に対する授業評価アンケートなどはしっかり実施されているが、社会人経験が長くなった卒業生も対象とする調査の検討も頂きたい。

3. 図書館の利用が激減していることが報告されている。時代は変化し世間での情報収集のあり方は以前とは大きく変化した。学生も教員も様々な情報にどのようにアクセスしているのか。図書館の利用が減ったとしても、別の方法で情報にアクセスをしているのではないかと。そうした視点から生成 AI の利用を含め、情報へのアクセスについてしっかり教育する時期に来ていると考える。

「2024 年度大学案内」については、分かりやすいものになったと感じている。一方で、星城大学には「スポーツマネジメント分野」というスポーツに励む高校生が注目しやすい学びの分野があるが、ホームページ上でこのコンテンツが見つけにくかったという声もあった。ホームページ含め高校生に分かり易い広報を引き続き検討・推進をお願いしたい。

以上